

みこむだこ

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

〒140-0001 品川区北品川2-2-10 TEL 03-3472-4772 FAX 03-3472-4770

URL <http://www.japan-city.com/sina/> E-mail: syukuba@cts.ne.jp

いよいよ始まる地域連携型 モデル商店街事業

4月から始まる「地域連携型モデル商店街事業」は、八ッ山から鈴ヶ森までの商店街、町会が協力しておこなう事業です。平成17年度は、まちづくり協議会が主導して計画策定をおこないました。

この事業の大きなテーマは「江戸、明治、大正、昭和を生き続けた東海道の復活」その柱は以下の3点です。

○東海道を石畳でつなく

江戸時代の風情をテーマに、8年前、先行して整備した青物横丁の石畳を品川橋南側から鮫洲の手前まで整備します。さらに主だった横丁、参道にも石畳を「つたい



石畳整備

石」状に敷いていきます。また、立会川駅の改札口から東海道までの区間も石畳整備をおこないます。残念ながら八ッ山から品川橋までの北品川は、今回地中化工事の兼ね合いで整備をすることができません。しかし、地中化事業が終了するときには、この石畳が宿場全体でつながっていることが期待されます。

○東海道を灯りでつなく

夕暮れから夜の風景も大切です。従来からの機能的にただ明るさを確保する照明から、目線のほんのりとした灯りをテーマに整備をおこないます。

具体的には、上部は大正モダンを意識した明るさを確保する照明、目線には行灯をイメージした演出灯のついたものに立て替えます。(現在決定しているのは宿場通り南会～青物横丁商店街の区間)

また、各商店街で付けているゲートも、江戸時代に八ッ山にあった「傍示杭」にちなんだゲート照明に立て替えます。(八ッ山から鮫洲まで)

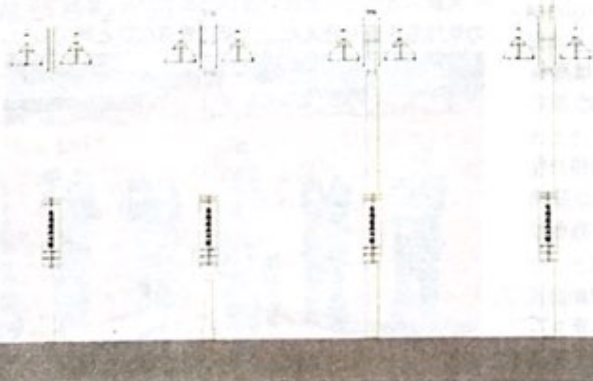
さらに、路地や商店の軒先などにも軒行灯を積極的に整備して灯りの演出をおこないます。

○東海道をまちなみでつなく

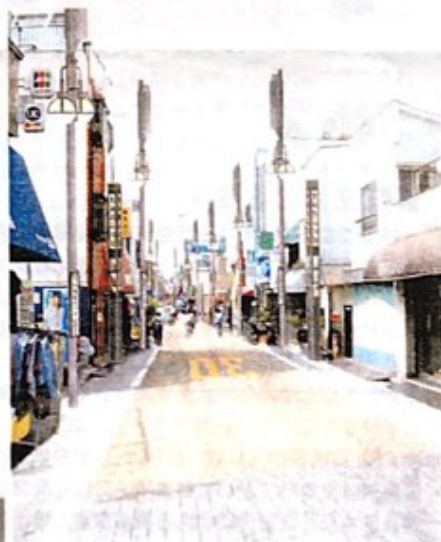
この事業では、今までなかなか進まなかった、まちなみも整備の対象になります。

建物の外装、軒、看板、のれんなど、「江戸風」「大正風」など一定のルールのもと整備を進めます。

これらの整備が進むことで、東海道沿いのまち全体のパワーアップが期待されています。



商店街街路灯(案)



完成予想図

六、川宿の入口にふさわしい景観と施設が設置。

地元住民、町会、商店会がこれらの施設がいつまでも美しく安全に維持されるよう協力してゆきたいものです。今後のスケジュールは平成19年春から着工し、秋に竣工、オープン運びになります。完成の時には、品川宿の一大観光施設として、街を訪ねる人達に大きくアピールしてゆくものなることを期待しております。

NPO東海道品川宿プロデュース3号店 参道レストラン「品川亭 連」OPEN

3月27日にNPO東海道品川宿がプロデュースする3店舗目「品川亭 連」がオープンしました。

また1号店「あぶりや連」ではこれまで手薄だった休日のまち歩きの人たちのために、観光ボランティア「ガイドしながわ」の皆さんと連携して「お休み処」機能の充実を目指します。そして「居残り連」では懐かしのメニュー「紙カツ」などを復活したりしています。

3号店の「品川亭 連」は、今までの2店舗と違い初めてワンフロアで、通りからも店内がよく見えるお店です。具体的にはまだ模索中ですが、営業時間外など「まちのサロン」として様々な活動に気軽に使ってもらえることを期待しています。また、内外装は平成18年度の地域連携モデル商店街事業を意図し、大正ロマンを意図したものと なっています。

これからも、まちにいかにも多くの人を迎え入れるかをテーマにやっていきたいと思ひます。今後ともまちづくりに関するご意見、ご協力をお願いいたします。



「品川亭 連」

賀詞交歓会報告

前回ご案内させていただきました賀詞交歓会には百名を超える皆様にご出席いただきまことにありがとうございます。

まず恒例の副会長吉澤誠之助より一文字のご挨拶。今年は「音和」、和をもって結び志をもって話すと言う意味で、まさしく協議会が目指すまちづくりを一字であらわしていました。

次に会長挨拶。

品川はまつりで動いています。文化と歴史がつまっているまつりを次世代に伝えるのが原点です。平成7年に「まちづくり計画書」が完成しましたが、そのさい若い人

に意見を聞いたら、このままでいいじゃないか、と言われました。たしかに全国チェーンはモスバーガーとミスタードーナツだけのまちでした。しかしその後おききな変化がまちを襲いました。品川を良くしようとして策定した計画書でしたが、力不足で今まで数えるほどしか実現できませんでした。しかし今年度、やっと大きなチャンスにめぐりあえました。地域連携型モデル商店街事業に指定してもらえたのです。行政に5分の4を負担していただける事業で、今まで資金面で地元の説得が難しかった、石畳をつなげる事業、灯りをつなげる事業など、いつになったら出来るのか見当もつかなかった計画が一挙に現実となりました。平成18年4月からスタートし、完成の時にはきっと東海道は変わったと感じていただける事業になると考えています。

区長をはじめ行政の方々が、本気でなんとかしようと思ってくれています。ここで頑張らなくては頑張る時がない。皆様のご協力をお願いします。

来賓を代表して品川区助役濱野健様より、地域連携型モデル商店街事業の指定、北品川地区における電線の中地化、そして観光アクションプラン、これは品川のイメージアップを目指したのですが、第一弾として旧東海道で実施したい。景観からの切り口で地域を見る景観法。これについても最初に旧東海道を指定して、ワークショップの中で地域の人に話し合ってもらった。行政としても、旧東海道とガッツリ四つに組んでいきたい。まちの力を結集し、シンボルとして発信の源になってもらう。と力強いお言葉をいただきました。

街運松の感謝状を贈呈。街運松をつなげるのも「まちづくり計画書」にもある。協議会の大切な活動の一つで、最終的には五十三次の宿場全部から松をもらって植えるのが目標です。昨年秋、初めて個人所有の新築マンションに過算7本目の街運松を植えることが出来ました。

松の寄贈は大磯宿から、そして場所の提供は青楓商店街の栗原氏。お招きして賀詞交歓会で感謝状の贈呈をさせていただきました。

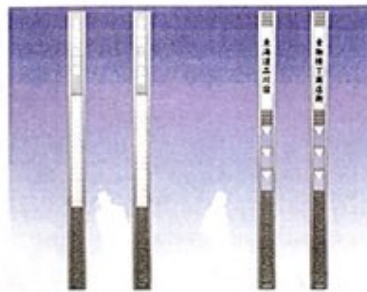
乾杯を、品川区商店街連合会会長須山嗣雄様にお願ひしました。

「宿場町としては日本一が完成するのではないが、誇りに思う。」とうれしいご挨拶をいただきました。

大勢の方々と和気あいあいと和やかに、まちづくりへの気持ちを語り合えた。大変に貴重なひと時でした。



賀詞交歓会で感謝状を贈呈。



商店街ゲート (案)

街の記憶-「景観資源等現況調査」を終えて-

平成5年に旧東海道品川宿の基本計画づくりに参加し、今回、景観形成基礎調査に携わらせて頂き、再び、じっくりと街を歩きまわることが出来ました。そこでの雑感。

都内には数少なくなったが濃厚な記憶を持つ街がある。それは必ずしも、歴史的に有名であったり名所旧跡を多く持つ場所ではない。さりげない生活空間の場であるが、時間の長い経過や大きな変化の中でも、その街しか持ち得ない「記憶」を継承してきている街だと自分の中で位置づけている。

南北にゆるやかな傾斜を持つ旧東海道駅は、京浜急行側から八ツ山通りにかけて東西にもより強い傾斜を持ち、路地空間をぬって八ツ山に至る傾斜を下ると海辺の記憶が見事によみがえる。海の香り、波の音を確かに聞くことができる。

この街は、周辺の大規模開発が進めば進むほど、街の記憶も光彩を放つてくる気がする。街道の記憶、路地の記憶、水辺の記憶、祭りの記憶…。そして時間の経過とともにじっくりと輝きを放ってくる「石」「木」「水」「人」。

この街もマンション開発やミニ開発が進んでいるが、みこしだに激進される街の記憶の継承が着実に進むつつあるのを目の当たりにすると、外観は変化していくとしても20年後、30年後も濃厚な記憶を持つ街でありつづけるにちがいない。そのことを願う。

都市計画同人 藤井英喜

しながわの水辺と観光

1年前にしながわの水辺の素晴らしいと題して寄稿させていただきましたが、この1年の間に都市型観光の目玉として東京の水辺、運河が注目を浴びています。

しながわ観光協会では一昨年より水辺観光事業3カ年計画を立てて、品川浦、天王洲、目黒川、勝島運河にても水辺の賑わいや魅力を創出するために色々なイベントを実施してきております。

勝島運河花海道春の菜の花、秋のコスモスカニバルには手漕ぎボート遊び、天王洲の納涼祭ではボートフェスティバル、しながわ宿場まつりでは屋形船観光船、そして11月には毎年恒例の風流屋形船ライブ(江戸芸能

ライブ)など、しながわの素晴らしい水辺を見ていると、もっと楽しいことがあるのでは夢は無限に広がります。いやこれは夢ではなく昔の人達は楽しんでいたので、

何も江戸まで遡らなくても昭和30年代までのついた最近まで水辺は我々の憩いの場、子供の遊び場でもあったのです。潮干狩り、海水浴、はぜ釣り、納涼船、花見船、花火観覧船、屋形船遊び、我々の周りには品川浦、天王洲、目黒川、京浜運河、勝島運河と素晴らしい水辺があります。すぐ隣に高浜運河、芝浦運河、古川、朝汐運河、日本橋川、神田川など水は境界線なく繋がっており、四季折々にこれらの河川・運河クルーズすることが出来ればこれはまさに都市型観光の目玉となりうるのです。

大風呂敷的夢はさておいて、水辺に親しむには、まずは水辺に下りることが出来る簡易浮き橋が必須であり、平成18年度に天王洲、勝島に「東京運河の駅・1年間の社会実験」と称して浮き橋を設置すべく計画中です。しかしながら、水辺はやはり危険と背中合わせです。そのための規範、法規制、慣行等を遵守しなければなりません。水難事故等を起こしては素もありません。まずは行政、水辺にかかわる方々との交流、意見交換、協議のための水辺、水運のルールづくりが急務です。我々の子供たちに愛され、親しまれる素晴らしい水辺空間を創出して行く第1歩となることを期待しています。

しながわ観光協会 常任理事 栗原洋三

ジュネーヴ市友好提携15周年

品川寺の大梵鐘が取得つご縁と、品川寺や品川区のご尽力により、平成2年にスイス ジュネーヴ市と品川区、ジュネーヴ市の商店街連合会とまちづくり協議会が友好提携をして、早いもので本年は15周年を迎えます。これまで、ジュネーヴ市とは様々な友好的なお付き合いをさせていただいてまいりました。5周年の際はジュネーヴ市から訪問団がおいでになり、10周年の際は品川区から総勢約300名もの大訪問団が伺う、といったように5年毎の節目の年にお互いの訪問団が行き来しております。また、そのお付き合いの中で一例として、青物横丁の通りに、ジュネーヴ市の赤十字本部や国連本部のあるメインストリート「アベニュー・ド・ラ・ペ(平和通りの壁)」と同じ名前を授かり、現地で使用されているものと同じネームプレートをいただき、また現在品川サイド内ジュネーブフォレストにある大きな花時計のための針を寄贈していただきました。そして15周年を迎えた本年は、いよいよ我が品川から訪問団として向う番となりました。地元の皆様と揃ってジュネーヴ市に行き、友好提携15周年のお祝いや友好を更に深めようではありませんか。日程等詳細につきましては後日発表させていただきます。

(ジュネーヴ市と品川との友好提携のあらまし)

慶応3年(1867)に、品川寺の大梵鐘がパリ万国博覧会に出陣、明治4年(1871)にオーストリア ウィーン万国博覧会に展示後、行方不明となり、大正8年(1919)ジュネーヴ市アリアナ美術館にあることが分り、市議会全会一致で贈還許可を得て、昭和5年(1930)5月4

日に東京日比谷音楽堂にて「スイス国贈還大梵鐘歓迎会」として実現した。翌5月5日には牛車に曳かれ、品川町民総出迎えの中、60有余年ぶりに品川寺に帰りました。

その後、平成2年(1990)に贈還60周年・梵鐘鑄造333年に合わせ、梵鐘1基を鑄造し、ジュネーヴ市アリアナ美術館に贈呈する事となった。同年ジュネーヴ市より使節団が来日し、地元としても宿場まつりを合わせて開催、これをきっかけに友好が深まった。翌平成3年(1991)、新梵鐘贈還とともに、品川からの訪問団が南品川三睦会町会大神輿をジュネーヴ市にて担ぎ、パレードをした。またその際、ジュネーヴ市と品川区・ジュネーヴ市商店街連合会と旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会が友好提携を結び今日まで続けている。

〈交流年表〉

平成2年(1990)ジュネーヴ市使節団・訪問団来日 新梵鐘贈呈式 宿場まつりを開催(ジュネーヴ市より送られた友好親善の世界最大のベル型チョコレート披露)

平成3年(1991)スイス建国700年10月下旬ジュネーヴ市にて「平和の響き」として新梵鐘撞き初め式 品川宿より参加の民間訪問団による、南品川三睦会町会大神輿渡御とセレモニー ジュネーヴ市と品川区・ジュネーヴ市商店街連合会と旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会 友好提携調印式。

平成7年(1995)ジュネーヴ市より訪問団来日 9月のしながわ宿場まつりにてパレードに参加。友好を深める。
平成8年(1996)9月に品川より、公式・民間訪問団約300名がジュネーヴ市を訪れ、パレード・祝賀行事に参加。9月13日ジュネーヴ市商店街連合会歓迎晩餐会に出席 14日ジュネーヴ市内を公式・民間訪問団とともにパレード ジュネーヴ市主催晩餐会に出席 15日アリアナ美術館にて梵鐘贈還5周年法要 ジュネーヴ市近郊にある村の収穫祭に参加。ジュネーヴ市審議会主催のさよならパーティーに出席。

平成9年(1997)青物横丁池上通り部分をジュネーヴ平和通り(アベニュー・ド・ラ・ペ Av. Do La Pex)と命名し、ジュネーヴ市で正式に製作されたプレートを送られ道沿いに表示。

平成10年(1998)青物横丁ジュネーヴ平和通り整備事業終了 ジュネーヴ市より公式訪問団来日。

平成13年(2001)ジュネーヴ市より訪問団を迎えジュネーヴしながわ友好憲章締結10周年を祝う。東海道400年祭グランドフィナーレにジュネーヴ市の訪問団・ブラスバンド「オンディーヌ」がパレード。

平成14年(2002)9月にジュネーヴ市商店街連合会から寄贈された花時計の針を元に『品川ジュネーヴ友好の花時計』が完成。

平成15年(2003)4月に『品川ジュネーヴ友好の花時計』完成御披露目イベントを開催。

ハッ山アンダーパス 平成19年秋開通

品川駅東口の再開発に伴って、JR東側地区の増大する交通量を処理する対策として計画された、ハッ山アンダーパスが、難工事のため予定から3年程遅れ、平成19年秋開通の見通しとなりました。これによりJR東側地区の自動車交通がスムーズに都心方向に出られるようになり、旧東海道商店街への自動車の流入も相当減ると思われまます。

この間、工事着手前に当地にあった東海道五十三次の道標や案内看板などが一時取り払われていましたが、工事主である鉄道・運輸機構から当初の約束に基づいて、復旧に際し地元の意向を聞きたいと、まちづくり協議会に打診がありました。協議会としては地元商店街、町会等の意見を聞き、事業団と調整を進めてきました。その結果、平成18年年明けに設計プランがまとまりました。

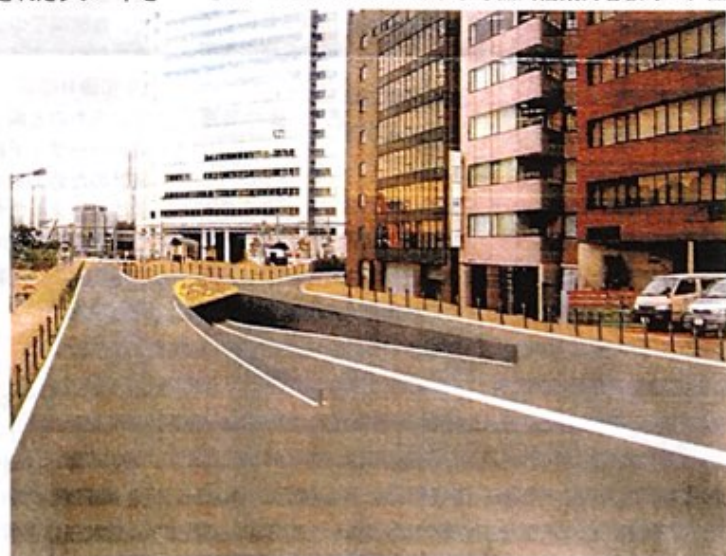
内容は以前の施設より更に充実した、品川宿の入口にふさわしいものとなりました。

〈概要〉

- ①東海道五十三次の道標の復旧と宿場町のある各市の木及び花などの植樹。
- ②新たに出来る(仮称)「旅だちの広場」に瓦屋根となまこ壁をモチーフにした、あずま屋や身障者にも使える公衆トイレ。
- ③江戸の街にあったかのような品川宿案内看板等々、品



ベル坊や



アンダーパス 完成予想図